特定非営利活動法人 里山保全活動団体 遊林会

2018 年度　事業報告書

概要

2018 年度はなんといっても気候に大きく左右された年でした。猛暑はもちろんのこと、台風 21 号の影響は凄まじいものでした。幸いにも人的・家屋の被害はありませんでしたが、森の復旧にも多数の人手とお金がかかり、現在も爪痕は残っています。

しかし、その台風をきっかけに改めて森について考える機会となりました。また同時に、河辺の森の設立時に植生調査をお願いした梅原氏に再び植生調査をお願いできることになりました。河辺の森の価値、そして遊林会の価値を植物の面から捉えていきたいと考えています。

2018 年度はこれまでと同じく、河辺いきものの森や梵釈寺での里山保全活動、そして自然体験活動や環境学習事業を中心に行いました。河辺いきものの森における自然体験対応人数は年間約 12,000 人（昨年度 12,000 人）、里山保全は 680 人となりました（昨年度それぞれ 650 人）。自然体験事業に関しては、学校や参加者からの評価も高く、質の高い活動が維持でてきていますが、里山保全活動の大人の参加者の減少が目立ちます。

2018 年をしっかりと振り返り、2019 年度、そして少なくとも 3 年間の長期の遊林会の活動を見据えて事業を進めていきたいと考えています。

2018年　事業報告書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

特定非営利活動法人 里山保全活動団体 遊林会

1　事業実施の方針

特定非営利活動に係る事業に関して、計画通り実施した

2　事業の実施に関する事項

(1)　特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事　業　内　容	実施日時	実施場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び人数
里山保全活動、及びそれらに関する事業	河辺いきものの森での里山保全	月2～4回	河辺いきものの森	各回約10～30人	滋賀県民505人
	梵釈寺での里山保全	月1回	蒲生岡本	各回約10名	滋賀県民173人
自然体験活動や環境学習、及びそれらに関する事業	滋賀県やまのこ事業	通年28回	河辺いきものの森	各回5人程度	滋賀県内小学4年　1318人
	東近江市やまの子キャンプ事業	5月～3月	愛郷の森 河辺いきものの森	各回3人程度	東近江小3～中3 188人
	モリイコ！事業	通年計50回	河辺いきものの森	各回4人程度	東近江市及び近隣4歳～小3年491人
	環境事業協会事業	通年計8回	河辺いきものの森	各回4人程度	大阪府府民194人
	各種学校・団体受け入れ	通年	河辺いきものの森 滋賀県内	各回2人程度	滋賀県民約6000人
	自主事業	通年	河辺いきものの森 滋賀県内	10～50人程度	滋賀県民約2,000人
その他この法人の目的を達成するために必要な事業	環境学習に伴う施設管理	通年	河辺いきものの森 河辺の森駅	各回1人程度	東近江市内、近隣市町村約2,000人
	運営事務	通年	河辺いきものの森	2～3人	

(2)　その他の事業

定款の事業名	事　業　内　容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数

■ 里山保全活動、及びそれに関する事業

里山保全活動　45 回　678 人　昨年　計 46 回　649 人

・河辺いきものの森：34 回　505 人　昨年　36 回 492 人

・蒲生地区 梵釈寺 ：11 回　173 人　昨年　10 回　157 人

1998 年から活動を開始して 20 年目になります。常緑樹や竹の伐採といった大人数が必要な作業内容から、草刈りや、水辺の管理などの、少人数での作業に変わりつつあります。

第二土曜日の大人の参加者の減少が顕著ですが、子どもや親子の参加が根付いてきています。

■ 自然体験活動や環境学習、及びそれらに関する事業

1．河辺いきものの森　環境学習事業

各種学校・団体受け入れ　対象：滋賀県その他

計 215 回対応、約 8,401 人対応

東近江市から河辺いきもの森での環境学習を委託され、実施している事業です。市内市外問わず、未就学児から、婦人会まで幅広い利用と、対応数が他の施設と比べても大変多くなっています。割合として小学校の利用が多いことがあげられます。また、特徴的な事業として、以下のものがあげられます。

・八日市北小学校 4 年生　13 回延べ 816 人（やまのこ含む）
・子育てサークル木の根っこ　18 回のべ 409 人
・建部里まつり　500 人
・人気体験プログラム・焼きいも　約 1,800 人に対して提供

主に里山を使った自然体験型の学習を行っています。自然のなかで、子ども達の心が動くような発見と体験、そして楽しい活動を目指して 2002 年から活動を続けています。
満足度はとても高く、子ども、保護者、教員と関係者から高い評価をいただいている事業ですが、スタッフと施設が限られている中、受け入れを断る団体もあります。
また、里山の中での活動のため、様々な危険を伴います。どうすれば、安全で楽しい活動がおこなえるか、適正な人数は何人なのか、ルールを決めて運営しています。

2.滋賀県　森林環境学習やまのこ事業　対象：滋賀県の小学校 4 年生

22 校　26 回 1,318 人　河辺いきもの森にて実施

滋賀県の森林税によって行われる事業で、県内 8 つの森林系施設で小学校 4 年生の子どもを対象に体験型の学習を実施するもので、遊林会としては今年で 12 年目になります。
5 年生を対象とした「うみのこ」学習とは異なり、「やまのこ」は個々の施設の立地条件や専任指導員の雇用形態によってプログラムが異なります。また、県の担当部局である森林政策課を始め、他施設のスタッフも定期的に変わる状況のなか、遊林会だけが初年度から専任指導員を変えることなく続けており、子どもはもちろんのこと、教員からの評価も高い施設です。しかし、森林環境学習としての達成に関してはまだ達成できていない点もあるため、毎年学校に合わせる形でプログラムの更新を行っています。

3．東近江やまの子キャンプ事業　対象：東近江市の小学校３年～中学生

・夏休み、愛郷の森にて４コース 184 人実施　（倍率 1.3 倍）

・リーダー研修　高校生～社会人のリーダー40 名を計５回 188 人実施

東近江市生涯学習課、やまの子キャンプ実行委員会からの委託で遊林会が実施する事業です。

■ヤマセミコース：１泊２日　50 人　3～4 年生対象

■カワセミコース：１泊２日　50 人　3～4 年生対象

■フクロウコース：２泊３日　60 人　4～5 年生対象

■イヌワシコース：３泊４日　24 人　６年～中３対象

の４つのコースに分けて、永源寺地区、愛郷の森キャンプ場にて実施しました。

大きな怪我もなく、無事に実施することができました。そして、最近はキャンプの子どもたちの指導役となるリーダーの研修にも力を入れ、人材育成としての事業も担っています。

４.モリイコ！事業　対象：主に東近江市　４歳～小学校３年生

５隊 10 人×10 回 491 人に実施（欠席あり）

・モリイコ！　　３隊　定員 30 人に対し 174 人（5.8 倍）初めて向け

・モリイコ！S　２隊　定員 20 人に対し　36 人（1.8 倍）リピーター向け

市内の４歳～小学校３年生の子どもを対象に、年間通じて 10 回森で活動するもので、河辺いきものの森の事業でも、高い人気を維持している事業です。

幼少期は感性を醸成する時期であり、自然の中で活動する事はそれに最適です。自然を感覚的に受け止め、柔軟に受け入れ、自己を変化させること。それは幼少期の体験からでしか得られないものです。また、自然のなかで繰り返し遊ぶことによって様々な能力を発展させ、かつ、異年齢での活動のなかから他者との関わりについても学んでいく貴重な場です。
また、その実施のためには、自然豊かなフィールドと指導するスタッフの役割が重要となってきます。遊林会はその二つを満たしており、様々な体験を提供できています。毎回の子どもの表情はもちろんのこと、保護者からの満足度もとても高い事業です。

以下、保護者のアンケートから抜粋

●少しずつではありますが、色々な事を自分でやってみようと考えられるようになってきたように思います。また、元々生き物は大好きですが、モリイコに行くようになり、周りの環境や自然にも興味を持ち始めるようになったと思います。（2 年生・男）

●色んな角度からものを見るようになった。人間から見てだけでなく、昆虫や鳥、小動物、植物がどう生まれて、その立場に立ったら、自分（人間）のしていることはどうか？というように。（5 歳児・女）

●「おやつ焼く時の焚き火の火が点かなかったけど、他の班の子が手伝ってくれて、炎がボォッと出てきたんやでー。協力って大切やし、協力って幸せやな」と本人談です。森や自然が、我と他者とをつなぎ、共に楽しみ力を合わせる機会を生み出してくれているんだなーと、とても嬉しく思いました。（2 年生・女）

●作ってきた工作にも自分らしさが感じられて、経験がチカラになっているなと嬉しく思いました。丁寧に指導してくださり、いつも本当にありがとうございます。（5 歳児・男）

●普段から危険なことには慎重な所があり、特に火は怖がっていると思っていたのですが、ブログの写真を見ると、一人でマッチを持っていてびくりしました。普段 1 番近くで見ているので、子どもの性格や限界を決めてしまっている所がありますが、楽しかったり安心できたり、応援してもらえると、まだまだ秘めた力を出せるということに気づくことができました。貴重な経験になったと思います。（5 歳児・男）

5.環境事業協会事業　対象：大阪府民

計 6 回、194 人に実施

一般財団法人 環境事業協会（大阪市）による委託事業で、唯一、県外からの委託事業です。自然体験の機会が少ない大阪の子どもたちにその機会をつくってあげたい。そこで、自然が豊かで、その魅力を伝える人がいる河辺いきものの森の遊林会でできないか、ということで 2012 年から始まった事業です。毎回大型バスで大阪から時間をかけてこられますが、同協会のなかでも人気事業となっています。

親子向けの、小学校 4～6 年生を対象としたもの、そして愛のまちエコ倶楽部との共同事業による農家民泊など魅力的な企画がたくさんあり、リピーターがとても多いのが特色です。

2018 年は、台風により、秋のプログラムを中止しました。

6　自主事業 ・主催イベント

6-1　河辺いきものの森での主催事業

・春休み：イベント 4 種 7 回、定員 155 人（申込 221 人）、クイズ　283 人

デイキャンプや自分たちで遊具を作る大きな木で遊ぼうなどのイベントが人気でした。たき火や工作のイベントも根強い人気があります。クイズラリーも 283 人（昨年度 211 人）の子どもたちが森を楽しみました。

・ GW：親子イベント 75 人　5 日間入場者　300 人

毎年人気のある春の森を味わうよもぎのイベント、そして 2018 年は初めて、一般向けのいつでも参加できるプログラムを開催しました。また、大人向け、子ども向け、それぞれ資料を作り、期間中センターの前に置き、スタッフがつかないタイプの自然案内のプログラムも行いました。

・夏休み：イベント４種６回、定員 110 人（申込 135 人）クイズ 69 人

一番人気は森の地蔵盆です。森のレンジャー講座も人気です。ただし、今年は申込みが減少（昨年度は 210 人）しました。猛暑の影響と考えられます。今年からクイズラリーの期間を縮小しました。

6-2 森のコンサート

・6/10　春の室内楽　No.34　弦楽四重奏　95 人

・11/11　0 歳から楽しめ子どもコンサート　No.35　AM72 人 PM70 人

毎年恒例の森のコンサート、今年は冬のクリスマスコンサートの代わりに、秋に子ども向けのコンサートを開催しました。春の室内楽も定員 90 名を越えるコンサートとなりました。

6-3 依頼型イベント

・栗東リーフの森　市民まつり 223 人

今年はじめての参加でした。木の工作のプログラムを提供しました。
300 円のプログラムでしたが、子ども 100 人もの参加がありました。

6-4　地域出張型

・三津屋町 2 回、平柳、池庄、布施　140 人

地域の自然や、地区のイベントにでむいて事業を行う地域出張型の事業を今年は 5 回、計 140 人の実施をしました。布施は今回初です。地域の自然を、地域の子ども達が体験し、学び、感じることは、これからの地域課題を解決するための大きなきっかけになると考えています。今後も、こういった地域にでていく活動をふやしていければ、と考えています。

6-5　エコツアー：大人のための森ですごす素敵時間　計 10 回　77 人

東近江市エコツーリズム推進協議会の一環として、大人の女性を対象に、森で様々な体験を通じて、森に親しむことで、遊林会メンバーを増やすことをねらいとして始めました。
第 4 水曜日の活動日と連動することで日程を確保、また、参加者を少人数とし、満足度の高い事業を行いました。、毎回自然観察会を織り込んでいるのも特徴です。内容としては春の森で絵を描く、ヨガ、カトラリー、ハーバリウムなどの事業を開催しました。
参加者の満足度は高く、リピーターも増えるなか、会員数の増加とつながらないなどの問題も見えてきましたが、数少ない大人の利用として、またケーブルテレビや新聞、ラジオなど多くのマスコミに取り上げてもらうなど、広報活動として大きな影響があります。

6-6　そとイコ！4 回　54 名

東近江市エコツーリズム推進協議会の一環として、子ども大人に限定せず、自然体験活動の一環としての事業です。太郎坊の妖怪、ホタルの観察会、星空観察会などを行いました。
ホタルは特に人気で、親子 10 組のところ、申込みが 19 組という人気でした。

6-7　モリイコＲ

モリイコの卒業生を対象に、長期の人材育成を目的とした高学年向けの自然体験事業を実施しました。場所は蒲生岡本梵釈寺を借りての事業であり、遊林会での森の保全の成果であり、地元の方との協力ができたのも大きな成果です。また宿泊型のイベントは初めてであり、お堂での宿泊体験、そして座禅体験などはここでしかできない事業です。

その他

7-1　植生調査

20 年間の森の植物の変遷を知るため、梅原先生（兵庫県立大学　客員教授）に植生調査を依頼しました。河辺いきものの森ができる 1997 年の調査の時の責任者でもあります。
2019 年度に植生調査の結果をまとめる予定です。

7-2　大学わさび調査

昨年度植栽したワサビの調査を岐阜大学の学生が行いました。
年間を通じて調査は 20 回、遺伝子レベルまで調査を行い、卒論で学科の優秀賞をとったそうです。河辺のワサビは遺伝子レベルで比べた時、はかなり長期的に隔離されており、独自の遺伝子を持っているそうです。

7-3　損保ジャパン CSO ラーニング生の受け入れ　1 人 37 日計 200 時間

公益財団法人　損保ジャパン日本興亜環境財団の「CSO ラーニング制度」
（大学生・大学院生の方に環境問題に取り組む CSO（市民社会組織、NPO・NGO を包含する概念）で8ヶ月間のインターンシップを経験していただく制度）
1 人のインターン生に 200 時間、森での活動に参加してもらいました。また、この制度に登録している団体は大手の NPO・NGO ばかりであり、その一員として認められるという評価にもつながると考えます。

7-4　インターン生　3 人　計 30 日

今年は龍谷大学から 3 人のインターン生が来られました。
森の保全から、学校の対応までスタッフと一緒に活動してもらいました。

■ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

河辺いきものの森・河辺の森駅管理

東近江市による委託事業です。主に林内の散策路の安全確保や、河辺の森駅の清掃業務などをおこないました。